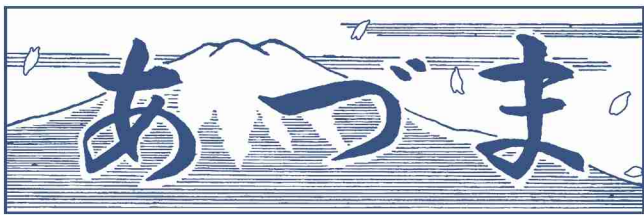


方面	方面隊訓練検閲	(1面)
1師団	師団演習	(3面)
12旅団	レンジャー帰還式	(4面)
1施設団	東富士演習場定期整備	(5面)
関東補処	防衛・駐屯地モニター研修	(5面)



令和5年12月25日 第1067号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446

専門識能を最大限発揮

令和5年度第2次方面隊訓練検閲



総評を述べる行政副長

方面隊は11月10日から15日までの間、東部方面衛生隊及び東部方面会計隊に対し、令和5年度第2次方面隊訓練検閲を実施した。

関課目とし、武力攻撃事態等における首都防衛作戦等に係る各種行動に加

えて、状況下の行動に先立ち、行動法令筆記試験、至近距離射撃、特殊武器防護の練度判定等を実施した。

統裁官（総監部幕僚副長（行政））は訓示において「防衛警備任務の実効性向上に創意を尽くせ」「作戦上の要求や部隊等のニーズに基づき、各々の専門識能を最大限発

揮せよ」「安全管理、情報管理及び物品管理の徹底」の3点を要望した。

衛生隊は方面区内各駐屯地、海・空自基地及び自衛隊各病院等に展開し、東方面管内で生じた負傷者の治療・後送及び統合衛生に係る関係部隊等との連携・衛生支援を実施した。また会計隊は各会計隊所在駐屯地等に

おいて、重要防護施設防護部隊や駐屯地所在部隊等の特性に応じた会計支援及び他方面隊の転用部隊等に対する支援を実施した。両部隊ともに、日頃の訓練成果を遺憾なく発揮し、被支援部隊等と緊密な連携を図りつつ、各々の任務を完了した。

関係 46面



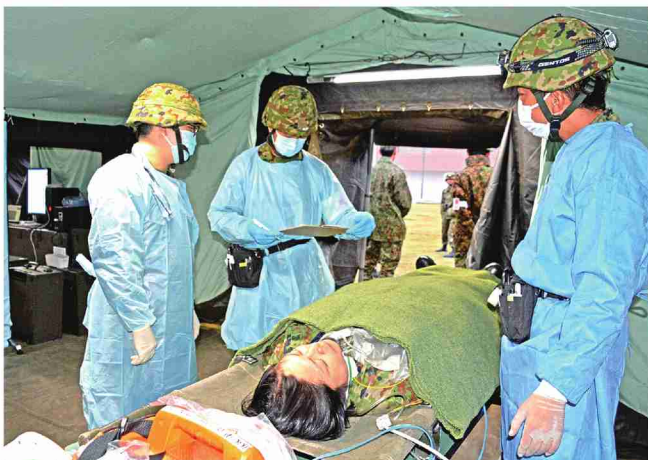
受閲部隊長同士の調整(左:衛生隊長 右:会計隊長)



負傷者を搬送する衛生隊



至近距離射撃を行う会計隊



負傷者を診療する衛生隊



資金交付のミッションリハーサルを行う会計隊

令和5年度東部方面音楽まつり
NEW GENERATION SYNERGY
～音楽の魔法による光輝く世界の創出～

♪ かがプロクラム かが
※ドラゴンクエストより「序曲」(すぎやまこういち)
※アイドル (YOASOBI)
※Chessboard (Official髭男dism)
※君をのせて (美空ひばり/ビジュアル系)

令和6年 2月23日(金・祝) **入場無料**

♪ 第1回公演 10:30 開演(9:30開場)
♪ 第2回公演 14:30 開演(13:30開場)

和光市民文化センター サンアゼリア大ホール

演奏部隊：東部方面音楽隊 第1音楽隊 第12音楽隊
朝霞振武太鼓 松本アルプス太鼓
北富士天竺太鼓 滝ヶ原雲海太鼓

特別出演：(一財)杉並児童合唱団 在日米陸軍音楽隊
協力：(公財)和光市文化振興公社

お問い合わせ先：陸上自衛隊東部方面総監部広報室
電話：03-3924-4473 E-mail: adminpr-sa@inet.gsd.f.mod.go.jp

令和5年度東部方面音楽まつり NEW GENERATION SYNERGY ～音楽の魔法による光輝く世界の創出～



X



ホームページ



Instagram



Facebook

方面隊は令和6年2月23日(金・祝)、和光市民文化センターサンアゼリア大ホールにおいて、令和5年度東部方面音楽まつりを開催する。

今回は「NEW GENERATION SYNERGY」音楽の魔法による光輝く世界の創出をテーマとしており、プログラムはYOASOBIの「アイドル」やOfficial髭男dismの「Chessboard」など、Z世代・α世代も楽しめる内容を企画している。

出演は東部方面音楽隊、第1音楽隊、第12音楽隊、朝霞振武太鼓、松本アルプス太鼓、北富士天竺太鼓、滝ヶ原雲海太鼓、またゲストとして杉並児童合唱団、在日米陸軍音楽隊を予定している。

当日は10時30分開演と14時30分開演の2回公演が行われ、入場は無料。「東部方面隊ホームページ」「X」「Facebook」「Instagram」において令和6年1月23日まで応募を受け付けている。

東桜会 東北方面区研修 東日本大震災の教訓を再認識



人命救助セットを見学する参加者(多賀城駐屯地)



ブルーインパルス前での記念撮影(松島基地)

方面隊は11月6日から8日までの間、東桜会東北方面区研修を実施した。本研修は東桜会25人に対し、自衛隊の理解の深化を図り、今後の活動の資とすることを目的として実施した。

研修初日は多賀城駐屯地において第22即応機動連隊の16式機動戦闘車、人命救助セット等の装備品や駐屯地資料館の「防衛館」を見学した。その後、南三陸町震災復興記念公園の「南三陸311メモリアル」を見学した。2日目は石巻南浜津波復興記念公園の「みやぎ東日本震災津波伝承館」を訪れ、東日本大震災による記憶と教訓を研修した。その後、航空自衛隊松島基地においてブルーインパルス飛行訓練を見学した。最終日は第6師団司令部(神町駐屯地)を訪れ、派遣海賊対処行動支

援隊(DGPE)の活動説明、第6特殊武器防護隊の装備品を研修した。研修は東北方面総監をはじめ受け入れ側の部隊指揮官の配慮により、充実した内容となった。参加者からは「東日本大震災から10年以上が経ち記憶が薄れかけていたが、第22普通科連隊(当時)の活動動画を見て、改めて自衛隊の存在のありがたさを認識した」「日頃からの防衛の任務に従事され、何かあった時に備えて訓練に励む自衛官には感謝しかない。自分たちができることは、自衛隊を応援し自衛隊の活動を啓蒙していくことだと思ふ」との感想があった。



化学防護衣を研修する参加者(神町駐屯地)

各地本等の良好施策を共有 地方協力本部長会議を開催



地本長会議の様子



訓示する総監

総監は「各地本の平素からの真摯な努力に心から感謝するとともに、現場が抱える問題認識や改善意見について必要なことがあれば引き続き総監部へ要望せよ」と訓示し、激励した。

今後とも方面隊は、地方協力本部、内局、3幕及び部隊が一丸となり、自衛隊の人的基盤の充実発展にまい進する。

総監部人事部は11月2日、朝霞駐屯地において各地方協力本部長及び内局、陸・海・空幕並びに部隊の担当者を集め、令和5年度第2回地方協力本部長会議を実施した。会議において、募集・援護・予備自業務の現況及び各地本の良好施策について情報を共有するとともに、制度等に係る意見交換を通じ、人材確保を促進させる資を得た。



UH-1の操縦席で写真撮影をする参加者



ヘリコプター体験搭乗を楽しんだ来場者



非常用糧食を準備する参加者(オートムフェア:体験喫食)



水たまりを走行する中型トラック(オートムフェア:体験試乗)



多くの来場者が訪れた埼玉地本のブース

広報センターイベント

オートムフェア・ヘリ体験搭乗でにぎわう



HPはコチラから

陸上自衛隊広報センターは11月18日にオートムフェアを、12月2日にヘリコプター体験搭乗を開催し、陸上自衛隊への関心と理解の促進を図り防衛基盤の育成を図った。

オートムフェアでは体験試乗、体験喫食、装備品展示が行われた。第1後方支援連隊の支援を受けた体験試乗では中型トラック3両で駐屯地内周回コースを約600人の参加者が楽しんだ。特にコースの目玉である水たまりなどの不整地走行はとても好評であった。体験喫食は第2高射特科群支援の下、非常用糧食を準備し、訪れた130家族が喫食した。装備品展示では第1偵察戦闘大隊支援の下、16式機動戦闘車の展示説明を行い、装甲車帽と防弾チョッキを体験試着して写真撮影を楽しんだ。

体験試乗を楽しんだ参加者は「泥の中の走行が面白かった。水たまりの中も迫力があって」と語り、体験試乗を楽しんだようであった。

ヘリコプター体験搭乗は東部方面ヘリコプター隊のUH-1X2機の支援により行われ、当日は雲一つない青空の中、約200人が約10分間の空の旅を楽しんだ。また当日は広報センターに展示してあるUH-1の操縦席を開放し、多くの来場者が操縦席に乗り込みパイロット気分を楽しんだ。体験搭乗を楽しんだ来場者は「初めてヘリコプターに乗りました。天気が良く、富士山やスカイツリーがよく見えて良い体験になりました」との感想があった。

両イベントを通じて自衛隊埼玉地方協力本部が募集コーナーを設置し、70件の募集情報を得ることができた。広報センターは令和6年もさまざまなイベントを計画しており、より多くの人が訪れてくれることを期待している。今後の詳しいイベント情報についてはホームページをご確認ください。

第1師団

令和5年度第2次師団演習

首都防衛のミッションリハーサル

師団は10月12日から18日までの間、東・北富士演習場及び各所在駐屯地において第2次師団演習を実施した。

本訓練における主要演習項目は「ゲリラ・コマ

ンドウ等への対処能力向上に係る訓練「本格的陸上作戦を含む任務に必ず部隊訓練」の2項目で実施し、各部隊の計画により各種事態対処能力の練度向上を図った。

ゲリラ・コマンドウ等への対処に係る部隊訓練では、第1普通科連隊、第34普通科連隊及び第1施設大隊が東富士演習場市街地訓練場において、住民の避難・誘導、警備

建物内に潜伏する敵の索敵・撃滅等の訓練を実施した。また第1師団司令部付隊、第1音楽隊は練馬駐屯地において重要防護施設の警備要領について訓練し、併せて患者発

生時の搬送要領等について練度向上を図った。本格的陸上作戦に係る部隊訓練では、各部隊の任務、特性に応じた訓練を実施し、その練度向上を図った。

師団は本訓練を通じて師団の重要任務である首都防衛に必要な部隊としての練度向上を図るとともに、師団の更なる精強化に向けた成果と今後の練成の資を得て終了した。

第2回観測指導者集合訓練

射撃の観測に係る指導者育成

師団は10月26日から31日までの間、富士駐屯地及び東富士演習場において、

今年度2回目となる本訓練は、師団司令部火力調整部長を担任官とし、各部隊の観測要員の観測能力の向上及び指導者の育成を目的として行われた。

本訓練では富士学校特科部の支援を受け、砲追観測シミュレータを使用して観測者の練度確認を実施した。また練成訓練において、射法則及び指導に必要な射撃理論を教育するとともに、実弾射撃による射撃の観測訓練を実施した。さらに射撃の観測に係る指導要領について解説や指導実習を行い、指導者としての識能向上を図った。

師団は10月18日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑(東京都千代田区)において、第1普通科連隊を基幹として、

て令和5年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭に伴う陸・海・空自衛隊合同部隊による部隊参列及び部隊拝礼を実施した。

慰霊祭は戦没者のご遺族をはじめ秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えして戦友会・遺族会関係者、閣僚、各国駐日大使・駐在武官及び自衛隊の多数の関係者が参列した。

同連隊第2中隊の角田2尉が指揮する部隊拝礼においては、厳格な雰囲気の中、先の大戦で亡くなられた戦没者に対する哀悼の誠を捧げ、爾々任務を完遂した。



建物内での敵の索敵・撃滅(1普連)



建物への突入(34普連)



警備(人員点検)(1施大)



患者の搬送(1師付・1音)



射撃の観測(実習)



射撃理論(講義)

横田基地で実施されたビバリー・モーニングに参加

～日米連携による各種事態への対処能力を向上～



航空自衛隊との連携

師団は10月22日から26日までの間、在日米軍が横田基地で実施した航空機運用を含む即応態勢を

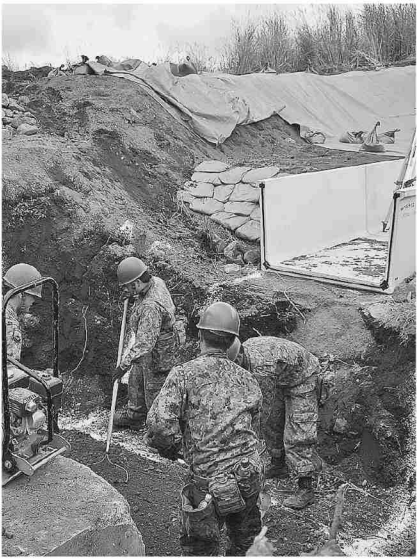
テストする訓練(ビバリー・モーニング)に参加した。

本演習は陸上自衛隊、米軍及び航空自衛隊で連携し、巡察及び各種事態対処における日米の連携要領について演練した。

訓練は防衛出動下における国内米軍施設での警備、特に各種不測事態に備えるため、軽装甲機動車等を利用した巡察及び即応対処チーム(QRF)を重点的に訓練することにより、連携した各種事態対処要領の資を得た。

秋季北富士演習場定期整備

丹精込めて「我らの道場」を整備



排水路整備

師団は11月4日から12日までの間、北富士演習場において、第34普通科連隊長以下約1300人により秋季北富士演習場定期整備を実施した。

本整備は練武の地である北富士演習場を整備し、本演習場を使用し、練成訓練を実施する部隊の作戦遂行能力の向上に資するとともに、周辺住民の安全を確保して防衛基盤を醸成することを目的として実施した。

8日、師団長は訓練施設等整備、管理施設等整備、機動路等の維持・整備状況等について良好に整備されていることを確認するとともに、本演習場整備に参加した隊員を激励・慰労した。

師団狙撃指定銃手の認定式



認定された34普連の隊員



認定された1普連、32普連の隊員

12人の1DDMを認定

(1st Division Designated Marksman)

師団は10月30日(練馬駐屯地)31日(板妻駐屯地)、師団狙撃指定銃手認定式を実施した。

本認定式は、師団が狙撃課程教育に準じて独自に定める到達基準に合格した首都防衛に特化した高い狙撃技術を有すると認められた隊員を師団狙撃指定銃手に認定するものであり、隊員の更なる練度向上及び士気の高揚を図ることを目的に行われた。

今回の認定式において12人の隊員が1DDMに認定され、師団長から認定証とワッペンが授与された。

- 1DDM認定者
 - ▼第1普通科連隊
 - 飯沼剛史 2曹
 - 新里真一郎 3曹
 - 宮永匠 3曹
 - 山口健佳留 3曹
 - ▼第32普通科連隊
 - 広瀬貴章 3曹
 - ▼第34普通科連隊
 - 中田祐樹 3曹
 - 滝原将人 3曹
 - 中村帝雅 3曹
 - 廣岡龍一 3曹
 - 小沢龍也 3曹
 - 待鳥龍也 3曹
 - 吉川将人 3曹



戦没者に対する捧げ銃

戦友会・遺族会関係者、閣僚、各国駐日大使・駐在武官及び自衛隊の多数の関係者が参列した。

同連隊第2中隊の角田2尉が指揮する部隊拝礼においては、厳格な雰囲気の中、先の大戦で亡くなられた戦没者に対する哀悼の誠を捧げ、爾々任務を完遂した。

第12旅団

任務完遂し無事帰還

旅団レンジャー教育修了

旅団は8月21日から新
 発田駐屯地、関山・大日
 原演習場及び同演習場周
 辺地域において第30普通
 科連隊長を担任官とし
 て、令和5年度旅団レン
 ジャー集合教育(養成)

を実施した。教育は11月
 5日に全ての行動訓練を
 終え、新発田駐屯地で帰
 還式を行った。
 最終想定を終え満身創
 痍の中、最後の力を振り
 絞って駐屯地に凱旋した9
 人のレンジャー学生は、
 旅団長に帰還報告を實施
 し、隊員及び家族が見守
 る中、旅団長から学生一

人一人にレンジャーき章
 が授与され、晴れて念願
 のレンジャー隊員として
 認定された。旅団長は訓
 示で「任務完遂おめでとう。
 約3カ月間、非常に
 厳しい訓練、各種任務を
 遂行し、この場に戻って
 きて栄えあるレンジャー
 き章を手にした諸官を、
 旅団長として本当に誇り
 に思う。今日が旅団のレ
 ンジャー隊員としての第
 一步、スタートである。
 この能力にさらに磨きを
 かけ向上させ、真のレ
 ンジャー隊員になることを
 感謝の言葉を語った。



旅団長からのレンジャーき章授与

帰還式後レンジャー学
 生は、出迎えた原隊の上
 司・同僚や家族・友人ら
 と再会し、祝福された。
 学生たちは約2カ月半の
 過酷な日々を振り返り、
 熱いものが込み上げてい
 た。



消防への傷病者の引き渡し(30普連)



土砂災害現場での救助活動(13普連)



海自艦艇への避難者輸送(2普連)

また第2普通科連隊は
 10月27日から29日までの
 間、新潟県刈羽村で実施
 された令和5年度新潟県
 原子力防災訓練に参加し
 た。本訓練は新潟県が主
 導して原子力災害が発生
 した想定で行われ、同連
 隊は被災した住民を海上
 自衛隊のエアクッション
 艇を用いて避難させるま
 での一連の行動を演練し
 た。連隊は避難住民の輸
 送と乗船誘導を行い、海
 上自衛隊及び関係自治体
 との連携強化を図るとも
 述べ、災害対処能力の向
 上を図った。



最終想定を終えて帰還するレンジャー戦闘隊



旅団長からのレンジャーき章授与

演習場機能の維持・向上

関山・相馬原・大日原秋季定期整備

旅団は10月23日から11
 月1日までの間、関山・
 相馬原・大日原演習場
 において「令和5年度方面
 隊秋季演習場定期整備」
 を行った。

演習場整備実施に当た
 り担任官の旅団長は、要
 望事項として「作戦とし
 ての行動の実践」「安全
 かつ効果的な整備の推
 進」を掲げた。本整備は
 旅団の各部隊が使用する
 演習場の機能を維持・向
 上させるとともに、より
 効果的な訓練を実施す
 るための基盤を拡充し、併
 せて長期の安定使用に寄
 与することを目的として
 行われ、関山は副旅団
 長、相馬原は第12施設隊
 長、大日原は第30普通科
 連隊長を整備隊長として
 実施した。

各演習場整備ではそれ
 ぞれの運用構想に基づ
 き、16式機動戦闘車機動
 路の整備、各射場の新
 設・整備等を行った。ま
 たICT施工・民生品を
 有効利用し、衛星測量器
 材(CLAS)と災害用
 ドローンを活用した測
 量、リモコン式草刈り機
 (リース)を活用した整
 備等、効果的かつ効率的
 な整備を実施した。



弔銃を実施する儀じょう隊

相馬原駐屯地は10月20
 日、暖かな日差しが降り
 注ぐ駐屯地慰霊碑におい
 て「令和5年度群馬県自
 衛隊殉職隊員追悼式」を
 挙行了。

昨年までは
 感染症対策の
 ため、参加者
 を最小限に限
 定して実施してきた殉職
 隊員追悼式だったが、新
 型コロナウイルス感染症
 の5類移行により4年ぶ
 りに以前のように参加者
 数を戻して追悼式が執り
 行われた。

追悼式は厳粛な雰囲気
 の中で執り行われ、拝
 礼、黙とうに続き執行者
 である駐屯地司令が追悼
 の辞を述べた。
 また献花の後、遺族会
 会長が挨拶をされ、在り
 しの日の故人を偲びつつ
 自衛隊の任務に対する労
 いの言葉が述べられた。

哀悼の誠を捧ぐ

令和5年度自衛隊殉職隊員追悼式



リモコン式草刈機による除草(12偵戦大)



災害用ドローンを使用する際の測量(13普連)

05JX

即応力の強化

令和5年度自衛隊統合演習



佐渡分屯基地での警備訓練(30普連)



第48普通科連隊の空中機動(12ヘリ)

旅団は11月10日から20日までの
 間、令和5年度自衛隊統合演習
 (05JX)に参加するとともに、
 第2次方面隊訓練検閲を支援した。
 本演習は、陸・海・空自衛隊が
 統合により行った演習で、自衛隊
 の統合運用能力を維持・向上させ
 るとともに、訓練の一部に米軍が
 参加し、日米の相互運用性の向上
 が図られた。

旅団は本演習の場を活用して、
 新潟県内で情報訓練を行うこと
 に、施設の警備に係る訓練を航空
 自衛隊の佐渡分屯基地、新発田・
 高田駐屯地等で実施した。また方
 面訓練検閲においては、大日原演
 習場から三宿駐屯地までの患者空
 輸の他、第48普通科連隊や方面特
 科連隊の空中機動を行い、即応力
 の強化を図った。

第1施設団

秋季東富士演習場定期整備

効果的かつ効率的な整備の追求

施設団は11月9日から18日までの間、東富士演習場において「令和5年度秋季東富士演習場定期整備」を担当・実施した。本整備に当たり、団と隷下以外の方面区内の各部隊も統制下におき、人員約1500人、車両等約380両による東富士演習場定期整備隊を編成した。

担任官兼ねて東富士演習場整備隊長である施設団長は「工事管理の徹底」「指揮の要訣の実践」「安全管理の徹底」の3点を要望するとともに、参加する全ての部隊・隊員が演習場整備の目的及び重要性を理解し、所命の任務にまい進するよう指導した。

本整備は東富士演習場を3コに区分し、北地区は機甲教導連隊長、南地区は第5施設群長が地区整備隊長となり、事前に作成した綿密な計画をもとに、隊員を激励した。15日には幕僚副長(防衛)が視察し、各整備状況について確認するとともに、隊員を激励した。整備隊は担任官の要望事項を確実に実行し、一件の負傷や事故もなく整備を完了させ、16日・17日の両日にかけて、担任官点検を実施した。担任官は各現場において機能性や品質を確認するとともに、着意した事項や苦勞話等の報告を受けその労をねぎらい、令和5年度秋季東富士演習場定期整備の任務を完了した。また13日には、防衛モニター及び駐屯地モニターが東富士演習場に来訪し、さまざまな建設機械を用いて演習場内の訓練施設を整備する姿及び隊員が勤務する様子を間近で研修し、自衛隊の活動に対する理解を深めた。



排水設備の改修 ブロックマットの設置



機動路の改修 箱型よう壁



装備品展示(92式浮橋)



装備品展示(中SAM)



駐屯地医務室の見学

荒川区協力会部隊見学

ようこそ！古河駐屯地へ

施設団は11月2日、荒川区自衛隊協力会(会長 田邊治邦氏)の部隊見学を支援した。本見学には14人が参加し、陸上自衛隊の概要説明の他、古河駐屯地所在各部隊の装備、施設の見学及び体験喫食を行った。装備品展示においては、92式浮橋のへん水場面を実際に真近で研修し、スケールと迫力に驚きの声を上げられた。限られた時間ではあったが、一連の見学を通じ、参加者は駐屯地及び自衛隊業務に対する理解を深めた。



戦車道の改修 D-Boxの設置



幕僚副長(防衛)に対する報告



測量をする関2士(第101施設器材隊)



採れき場の研修をする防衛・駐屯地モニター



関東補給処

モニターが霞ヶ浦駐屯地研修

関東処等活動概況を説明

霞ヶ浦駐屯地は11月9日、防衛・駐屯地モニターに対して駐屯地研修を実施した。本研修は駐屯地及び自衛隊の活動概況について説明することにより親近感を醸成し、今後のモニター活動の資となることを目的としている。モニター一行は当初、広報センターにおいてブリーフィングを受けた後、第103補給大隊の野外炊具1号(22改)を研修するモニター



野外炊具1号(22改)を研修するモニター



火器車両保管倉庫内を研修するモニター



ハラズメント防止教育

良好な職場環境構築の資へ

関東処は11月21日、霞ヶ浦駐屯地においてハラズメント防止教育を実施した。本教育はハラズメント根絶を図るため、各部・各支処等の管理者クラスを対象に、良好な職場環境の構築及び適切な職務指導の資とすることを目的とし、部外講師である新谷和也氏を招き行われたものである。新谷氏は当初、ハラズメント防止の重要性を説いた。その後、クイズやグループ討議を交えながらハラズメント及び世代間ギャップについての理解を深めさせつつ、「ハラズメントはいろいろな場面での『嫌がらせ、いじめ』であって、絶対に許してはいけない危険行為。『アツ』にならない、『アツ』にならない」という意識を一人一人が持つことが大切」と重ねて強調した。引き続きハラズメント根絶を図るとともに、意識改革を行っていく。

有する保管倉庫、そして航空部分光分析班を研修した。霞ヶ浦駐屯地に在する部隊等についての知識を得るとともに、その任務の多様さに驚いている様子が見られた。研修に参加したモニター1の1人は「自衛隊とい

土浦全国花火競技大会を支援

有線構成で通信網構築

関東処及び第320基地通信中隊から派遣された隊員は、大会前日から当日にかけて有線構成による通信網構築し、野外電話機を用いた通信手段の開設・運営を行った。本支援で大会の整備円滑な運営に貢献し、自衛隊と関係諸団体間における信頼の醸成に寄与することができた。



電話回線構築作業に当たる隊員

霞ヶ浦駐屯地は11月4日、茨城県土浦市桜川町において開催された「第92回土浦全国花火競技大会」の運営を支援した。本大会は日本全国の花火師が集い技を競いあう花火の競技大会であり、大正14年、霞ヶ浦海軍航空隊殉職者の慰霊及び関東大震災後の不況で疲弊した土浦市の経済活性化を目的として始まった。霞ヶ浦駐屯地としては昭和43年から大会運営に係る支援を行っている。

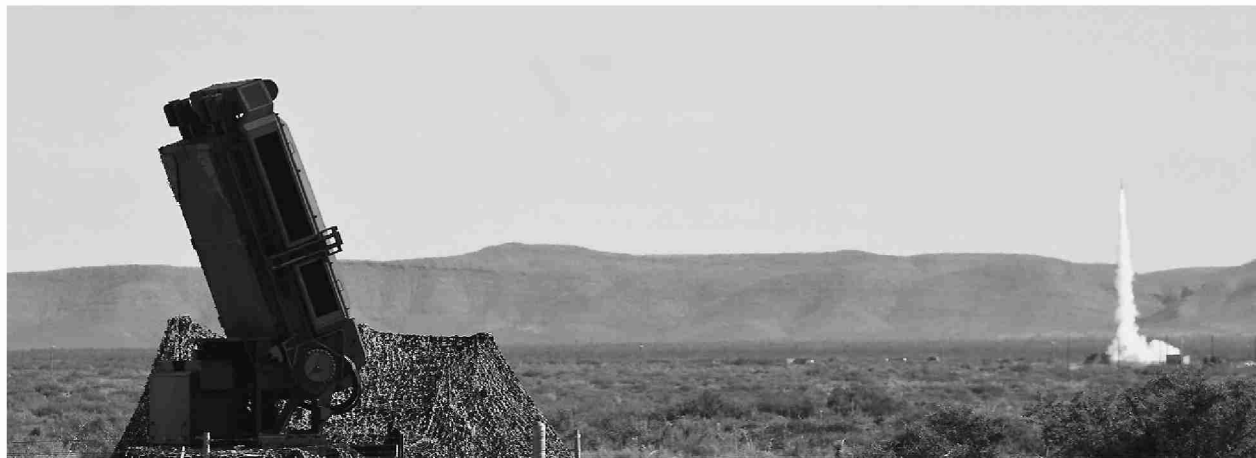
えは戦闘訓練ばかりしているイメージが強かった。後方支援の任務や役割などを知ることができた今回の研修は、とても貴重で有意義なものだった」と感想を話していた。

2高群 米国での実射訓練 2個中隊が訓練検閲受閲

第2高射特科群は9月28日から30日及び10月4日から7日までの間、米国ニューメキシコ州マクレーガ射場において、評価支援隊、米陸軍UT&Cの支援を受け、第336

4高射中隊及び第336高射中隊に対する令和5年度SAM部隊実射訓練検閲を実施した。

本訓練では基礎となる部隊として、陣地の占領から日本国内では成し得



発射する中SAMと多機能レーダー

シ通群

部外と連携しシステム通信確保 方面隊訓練検閲を支援



勝田駐屯地屋上の開設状況

東部方面システム通信群は11月7日から20日までの間、令和5年度自衛隊統合演習（実動演習）に参加した。また令和5年度第2次方面隊訓練検閲統裁部・演習部のためのシステム通信の構成・維持・運営を支援し、円滑な訓練実施に寄与した。

本演習では日本原子力株式会社と連携して、東海第2原発及び勝田駐屯地に野外多重無線通信所を開設し、システム通信確保のための検証を実施するとともに、施設学校の広域多目的無線機を接続して、東海第2原発

から勝田駐屯地間の無線通信確保の検証を実施した。

また今回の演習では、東海第2原発の敷地内に自衛隊車両を初めて展開し、通信所の開設を実施することができ、実効性向上の資を得ることができた。

システム通信群は引き続き、関係機関等との連携強化を図るとともに、部隊行動の命脈である通信機能を最大限発揮できるように、本演習で検証した成果をさらに深化させ、作戦遂行能力の向上を図っていく。



射撃準備する隊員

ない対空実射までの高射中隊の一連の行動について演練し、その練度を評価した。

本訓練の終始を通じて両中隊は、中隊長を核として全隊員が一致団結し、

各人の使命をよく自覚し、本任務の達成に取り組んだ。

今後も戦果への執念をもって戦い抜くことができる精強な高射中隊を目指し、「中隊の力」をさらに高めることを決意した。

第2高射特科群は引き続き、方面隊の対空掩護部隊として強靱な東部方面隊の創造に寄与していく。

混成団 第117教育大隊で入隊式 75人が新たなスタート

第117教育大隊は10月5日、武山駐屯地において「第21期一般陸曹候補生課程」及び「第22期自衛官候補生課程」の入隊式を実施し、一般陸曹



宣誓する高橋自候生



入隊式の様子

候補生42人、自衛官候補生33人の合計75人が新たなスタートを切った。

式典は来賓及び隊員家族が参列する中、一般曹は秦祐介2等陸士が、自候生は高橋秀綱自候生が新隊員を代表して申告を行い、それぞれの候補生たちが力強く宣誓した。

これを受け、混成団長は「素直な心で教育に臨め」「切磋琢磨し、団結せよ」の2点を要望し、結びに「青き海原を臨むここ武山において第117教育大隊の下、国家防衛の志を胸に、その第一歩を力強く踏み出そうとする諸官の今後益々の精進を祈念する」と訓示し、新隊員を激励した。

式に参列した父兄は、10日ぶりに見る新隊員の決意を秘めた眼差しと凛々しい制服姿に目を細めていた。

新隊員はこれからの3カ月間、教官、助教の指導の下、同期と切磋琢磨し、陸上自衛官として必要な知識・技能を修得していく。



構成状況を確認する群長

立川駐屯地創立50周年記念行事 地域とともに50年 信頼を、この先も



編隊飛行を見学する 家族連れや航空ファン

この後、UH-1Jなど15機による編隊飛行が披露されたほか、UH-1Jとその後継機であるUH-2によるデモ飛行、自衛隊・消防・警察など連携した災害救助活動展示が行われた。

その他にも在日米陸軍軍楽隊による演奏、装備品・航空機等の各種展示、フォトスポット、模擬売店等も並び家族連れや航空ファンでにぎわった。



飛行場の芝生にできた50の文字

立川駐屯地は10月29日「立川駐屯地創立50周年記念行事（航空祭）」を開催し、50周年という節目を祝すとともに、4年ぶりに駐屯地を一般開放し、来賓及び地域の皆様を迎えた。

本行事では地域の協力者、防災関連関係者などを招待者し、感謝状贈呈式、式典、記念会食などもなされた。式典において司令は「長きにわたりこの地で活動できたのは地域の皆様のご理解とご支援のたまもので、厚く御礼申し上げます」と謝意を述べたうえで「これからの50年も平和と独立を守る自衛隊の責務を全力で果たす」と述べた。

新潟地本 貴重な体験に感動 潜水艦・LCAC等を見学

自衛隊新潟地方協力本 港沖で募集対象者等40人 部は10月14日、新潟西 に対し、海上自衛隊第2 潜水艦群所属潜水艦「うずしお」の特別公開を行っ た。



うずしおの上甲板での記念撮影



LCACに乗り込む参加者

当日は天候に恵まれ、見学者は乗艦前の説明を聞いた後、沖合で待つうずしおに向かう通船へと乗り込んだ。穏やかな海面を進み、うずしおを確認すると「見えた！」と歓声を上げた。うずしおに接舷すると、見学者は乗員の誘導に従い、上甲板で記念撮影や艦内見学を楽しんだ。「潜水艦の中を見ることができ、少し狭いと感じたが椅子の下に野菜を入れていたりする工夫にびっくりしました」「乗員も丁寧でかっこよく、海上自衛隊に入隊して潜水艦に乗りたいと思いました」など感想があり、潜水艦の魅力を伝える高い広報効果があった。

また新潟地本は10月27日、柏崎中央海水浴場で募集対象者等30人に対し、海上自衛隊第1輸送隊輸送艦おおすみ搭載艇LCAC体験搭乗(特別見学・体験喫食)を行った。参加者は浜辺で実施したビーチング訓練を見学して「すごい迫力！」等の驚嘆の声を上げた。体験搭乗の時間を迎えると、搭乗員の誘導でLCACに乗り込み、体験搭乗後におおすみに乗艦した。乗艦後の体験喫食ではおおすみ特製のカレーにおいしいと噂の海上自衛隊のカレーは初めてです。とてもおいしいです！と笑顔を見せていた。また、陸上自衛隊の車両及びおおすみ艦内を見学し、隊員の説明に聞き入り感心していた。さらに10月28日、直江津港中央埠頭で募集対象者等60人に対し、海上自衛隊第1輸送隊輸送艦おおすみ特別見学を行った。乗員の誘導で特別見学

ある！ある！自衛隊

byとむえ

「X-2音 飲んどうと アフナイ 飲んどうと」
「コロナの時も 手足口病も」
「前日に飲んどうは インフルエンザは」

栃木地本 秋の味覚と自衛隊を満喫 もてぎうまいもの市で広報展



長蛇の列ができた大型トラックの試乗

自衛隊栃木地方協力本部 真岡募集案内所は11月3日「ふみの森もてぎ」(栃木県茂木市)周辺で行われた「もてぎうまいもの市」において茂木町自衛隊家族会(会長 平野和男氏)及び東部方面特科連隊第2大隊の支援の下、広報展を出展して自衛隊をPRした。「もてぎうまいもの市」

は茂木町民に愛されるご当地グルメを楽しんでいただくことをコンセプトに、毎年秋に開催されている町民祭りである。また同日に茂木町の里山の景色や秋の味覚を歩いて楽しむ大人気のイベント「もてぎ里山ウォーク大会」(本年は約1500人が参加)も開催され、イベント会場は町内外のたくさんの方々が賑わった。広報展では炊事車、大

群馬地本 自衛官フラダンス踊る ステージ上から募集活動



フラダンスを踊る隊員

しいイメージを払拭したいとの提案から始まり、今年で2回目となる。当日は迷彩服でステージに上がり元気に力強く踊った。来場者から「日頃鍛えている自衛官がフラダンスを踊るなんて驚きました。とても素敵でした」と感動する人もいた。昨年の各種SNSで投稿を見た方からは「昨年の動画を見て、今年も自衛官のフラダンスを楽しまにしたい」という声が多かった。また地元中学校の生徒から「昨年のフラダンスがきっかけで、自衛隊に興味を持ち、総合的な学習の時間に参加します」などの話を聞き広報効果も確認できた。「ALPHA」という言葉が自衛隊と国民をつなぐ架け橋になるように願いを込めるとともに、この活動を通じて自衛隊を身近に感じてもらうために強く願うイベントであった。

訓練所感

東部方面後方支援隊 第104全般支援大隊 3等陸曹 中村 康紀

第一〇四全般支援大隊

後方支援隊訓練検閲

10月3日から22日までの間、朝霞駐屯地及び東富士演習場において実施された令和5年度第1次後方支援隊訓練検閲に化学整備陸曹として参加しました。私に平成28年にこの第104全席への試乗が大人気で、子どもから大人まで、隊員から降り降り説明を受けながら運転席に乗り込み「思ったより高い！機能説明に熱心に耳を傾け「ごはんとおかずを同時に大量に作れる装備品の高い能力に驚きました。災害時に短時間で温かい食事の提供がなされることとは大変ありがたいです」との感想があった。また大型トラックの運転

検閲前段は出動前の教育を助教員として大隊約160人に対して実施し、00式個人用防護装備の装着要領の展示及び練成を行い、化学攻撃に対する防護意識を高め、大隊隊員の被害の局限に貢献することができました。

その際、脅威の度に応じた装着要領を演練するとともに、裾の隙間や端末処置など細部まで点検することで、化学攻撃に対する防護性の強化を意識させ、教育効果の向上を図りました。また大隊長要望事項の一つである「戦力の維持」を実行するため、被支援部隊の保有する装備品の予防整備を前倒しで実施し、故障を発生した際は、必要部品及び修理時間の見積りを至当に行うとともに迅速に整備を実施して、被支援部隊の装備品の高可動維持を第一義とするよう心掛けました。

本検閲を通して特に印象に残ったことは、パトラーの装着によるより実戦的な戦闘行動でした。普段の訓練以上に敵を意識して、高い緊張感をもって野外行動を行うことができました。今後は野外整備において極限状態及び緊張感のある状況でも化学器材を確実に迅速に整備できるよう日々精進していくことが重要であることを改めて認識できました。

今回の訓練検閲での経験を今後の自衛隊人生の糧とするように、引き続き、大隊の任務達成に寄与するため化学整備陸曹として活躍し、併せて後輩育成にまい進していきます。

最先任 上級曹長

「帰属意識」 東部方面音楽隊 富田 道広 准陸尉

令和5年7月7日付で東部方面音楽隊先任上級曹長に上番しました富田准尉です。出身は埼玉県、勤務歴は昭和60年に入隊後、平成元年に第1音楽隊に所属、その後は東部方面音楽隊、北方面

面音楽隊の勤務を経て令和2年3月より東部方面音楽隊で勤務しています。私が先任上級曹長に上番して大切にしているのは組織に対する「帰属意識」です。「帰属意識とは、個人が特定のグループ及び組織に対して強い結びつきや所属感を感じる心理的な状態や感情を指します。簡単に言うと、隊員が「部隊に誇りを感じている」「部隊を愛している」状態を言います。どんなに科学技術が発展し、兵器・戦法が新

しくなっても、軍事組織にとって団結・規律・士気といった無形戦闘力の必要・重要性は変わることはありません。音楽隊においては、団結・規律・士気の高さがそのまま演奏のパフォーマンスに表れます。そしてこの部隊の無形戦闘力を強化するためには隊員の帰属意識を高揚させることが重要だと思います。では帰属意識を高めるために、我々が意識しなければならぬことは何でしょうか。私も明確な答えを持ってはいるわけではありませんが、普段から意識しているのは「隊員相互にコミュニケーション

をとり、意思の疎通を図る」です。先任上級曹長として、隊員一人一人と良好な人間関係を築き、少しでも隊員の声に耳を傾けることでモチベーションの維持、チームワークの向上に寄与できると考えています。帰属意識は一朝一夕では絶対に醸成できないものであり、また、一瞬にして向上する魔法の施策・言葉も存在しませんので日々の積み重ねが重要であると認識しています。このため、隊員が愛着を持ち、全自衛隊・国民に誇れる東部方面音楽隊の育成に寄与していきます。



編集後記

「塞翁が馬(さいおうがうま)」という故事成語は「人生において、何が良く何が悪いのか予測できない」とのことと覚えて使われる。昔、老人である塞翁が飼っていた馬が逃げたが、後に駿馬を率いて戻ってきた。また、息子が落馬をして足を折ったが、そのおかげで生き残ることができた、という故事に由来する。

人生は常に状況判断の連続であるが、その行為から生じる未来の完全な予測は不可能である。結果は良い時もあれば悪い時もあるだろう。ただ、一見、悪い結果に見えても長期的に見れば、実は良い結果となるかもしれない。いずれにせよ時空を超えるタイムマシンやゲーム機のリセット機能が無い現実の世界においては、過去の時点に戻って選択をやり直すことはできない。ならば、後悔し反省することはあっても常に前向きな思考でいた方が、自分にも周りにも良い結果がついてくる気がする。

「施設科隊員として」 第12施設隊 熊谷 彩花 3等陸曹

今月のフェアレディは、第12施設隊の熊谷彩花3曹です。

熊谷3曹は埼玉県出身の22歳で、第12施設隊交通小隊の施設陸曹として勤務しています。趣味は中学生の頃吹奏楽部に所属した際に始めたフルートの吹奏と、恋愛小説を読むことです。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
両親が自衛官だったことがきっかけです。また



小さい頃から「人の役に立てる仕事に就いてみたい」と考えており、自衛官になることを決意しました。

Q2・施設科職種を選んだ理由は？
施設科は災害時において、道路啓開等により被災された方々のライフラインを確保する他、有事においては障害処理や陣地構築等を行う職種であり、第一線部隊から後方部隊まで施設支援をし、役に立てる職種と思ったからです。

Q3・休日の過ごし方は？
最近入籍をして営外者になったこともあり、家具を揃えるためにインテリアショップ等に出掛けたり、中学生時代から仲

のいい友人と洋服や雑貨等の買い物に行きリフレッッシュすることが多いです。

Q4・今後の目標は？
今後は施設機械操作陸曹として勤務したいと思っております。最近念願

の大型特殊自動車免許を取得したので、これからの教育訓練を通じてさまざまなことを学び、知識・技能に磨きをかけ立派な施設科隊員として勤務していきたいです。

Q5・最後に一言
施設機械操作陸曹としてさまざまな知識・技能を習得して、一人前のオペレーターとなり旅団・施設隊に貢献できるように頑張っていきます。

東方男児 「冥冥之志」 関東補給処 松戸支処 小林 優太 1等陸士

今月の東方男児は、関東補給処松戸支処 落下傘部整備工場勤務する小林 優太1等陸士です。小林1士は埼玉県出身の27歳で、令和4年9月に入隊しました。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
前職は陸上自衛官で普通科隊員でした。任期満了で退官してから、SNSで発信されている同期の活躍を見ていううちに、もう一度自衛官としていろいろなことに挑戦



してみようという気持ちになり、再入隊しました。

Q2・職種を選んだ理由
また普段行っている業務は？
職種は需品科です。再入隊前から空挺隊員への

憧れがあったのですが、前期教育の区隊長から「需品科職種は落下傘整備の空挺隊員として活躍できる」と聞き選びました。普段は第1空挺団で使用されている物料率1号、2号の検査、整備及

Q3・休日の過ごし方は？
趣味がドライブなので、道の駅巡りなどをしてスイーツなどのおいしいものを食べたり、学生時代の同級生とテニスをしたりして体を動かしております。

Q4・今後の目標は？
今月、らっぱのMOSを取得したので、今後も努力して吹奏技術レベルアップしたい。また来年1月には基本降下課程に入校予定のため、体力練成も並行して実施中です。座右の銘である冥冥之志「めいめいのころさし」(人知れず努力すること)を胸に挑戦を続け、今後も落下傘部に貢献していきます。